

続 水ビジネスの 新潮流

10

第6回世界水フォーラムが先月12日〜17日、フランス・マルセイユ市で「水問題解決の時」を主要テーマに開催された。筆者も参加したので、その様子をレポートする。

今回は170カ国からの閣僚級の参加者に非政府組織(NGO)、NPOなどを含め総勢3万5千人が参加した。今後の行動規範として「マルセイユ閣僚宣言」が採択され、次回のフォーラムを15年に韓国で開催することが正式に発表された。

今回の成果は、6月にラジルで開催される国連持続可能な開発会議「リオ+20」に提案されることになっており、今後は、世界が直面する水問題への解決が加速することを期待している。

国連ミレニアム開発目標が未達成

世界中で安全で衛生的な飲み水を利用できない人がいまだ10億人以上存在すること、約25億人がより水不足が深刻化し、

水需要の予測と課題

世界中の農業用水は50年に現在から19%以上増加し、さらに気候変動に最近話題になっている「ランドラッシュ」問題

ランドラッシュ問題と水資源

水問題と食糧問題、特に水不足が深刻になると、これら関係国間の争いが加速される恐れがあることから、国際間の協力や枠組みが必要であるとしている。

第6回世界水フォーラムの現場から

水問題解決へ多彩な議論

いまだに衛生的な環境に
なく、この点で15年を期

成果は「リオ+20」へ

治水費用が年間一兆円以上必要になると予測。世界の上必要になると予測。世界の148カ国は他国も

では、食糧やバイオ燃料がアフリカや中南米の農地取得を加速、現地の水資源を大量に浪費して

いるとの報告があった。自国の食糧需要を満たすために他国の水資源を浪



日本パビリオンの前で水団連視察団

費し、しかも他国の環境破壊を加速しており、これは相手国の安全保障を脅かす新しい水問題であると警鐘を鳴らしている。

議長を務め、東日本大震災に当たって世界各国から寄せられた支援に対して謝辞を述べた。その後、「世界の水災害の被害軽減に向けた方策と行動」の発表と議論がなされた。

気候変動と水資源

気候変動は降雨パターン、水河の融解、表流水や地下水の変化を引き起こす。すでに洪水と干ばつなどによる水災害の被害は世界各地で頻発している。この解決策として「水資源に対するガバナンスの早期実現のために、公民連携の努力による投資を増加させなければならない」としている。

日本勢の活躍

(1)水関連災害に関する
関係閣僚級会議

関係閣僚級会議では奥田健国土交通副大臣が「水関連災害」のテーマ

(2)アジア太平洋地域統合コミットメント会合
前半ではアジア太平洋地域における水問題の具体的な目標や事例報告があり、後半では第2回アジア太平洋水サミットに向けた議論が行われた。森喜朗同フォーラム会長(元首相)は、東日本大震災における世界各国からの支援に謝辞を述べた。

(3)日本パビリオン
展示会場の日本パビリオンでは、産官学が連携し日本の技術情報や東日本大震災を踏まえた復興状況について情報発信を行った(合計15団体が出展)。また初代「水の天使」の酒井美帆さんが、世界各国の来訪者に笑顔で日本をPRした。

グローバルウォータ・
ジャパン代表

よしむら かずなり
吉村 和就